

報道関係者各位

令和7年3月5日
独立行政法人国立科学博物館

気象業務150周年企画展「地球を測る」 開催及び報道内覧会実施のお知らせ

国立科学博物館（館長：篠田 謙一）は、2025(令和7)年3月25日(火)から6月15日(日)までの期間、下記のとおり、気象業務150周年企画展「地球を測る」を開催いたします。

また、本展の開幕に先立ち 3月24日(月)16時から17時30分の間、別添のとおり報道内覧会を実施いたしますので、併せてご案内申し上げます。

1875年6月1日に東京気象台（現在の気象庁）において、我が国の気象業務としての気象・地震観測が始まりました。本展では、さまざまな自然現象を観測する手法やその歴史、これまで蓄積されてきた観測データから地球環境の様子やその変化が明らかになり、また防災・減災にも大きく貢献していることを紹介します。

広報に関して特段のご支援・ご協力を賜りたくお願いいたします。



地電気自記器
(所蔵：国立科学博物館)

記

【企画展名称】気象業務150周年企画展「地球を測る」

【開催場所】国立科学博物館（東京・上野公園）

日本館1階 企画展示室及び中央ホール

【開催期間】2025（令和7）年3月25日(火)～6月15日(日)

【開館時間】9時～17時

※4月26日(土)～5月6日(火・休)は18時まで

※入館は各閉館時刻の30分前まで

【休館日】月曜日、5月7日(水)

※ただし3月31日(月)、4月28日(月)、5月5日(月・祝)6月9日(月)は開館

【入館料】一般・大学生：630円（団体510円）、高校生以下及び65歳以上：無料

※本展は常設展示入館料のみでご覧いただけます ※団体は20名以上

※入館方法の詳細等については、当館ホームページをご覧ください

<https://www.kahaku.go.jp/>

【主催】国立科学博物館

【特別協力】気象庁

【協賛】日本気象協会

【後援】地球ウォッチャーズ -気象友の会-

【協力】宇宙航空研究開発機構、金沢大学理工研究域、国際ミュオグラフィ研究所、国土地理院、情報通信研究機構、東京大学国際ミュオグラフィ連携研究機構、東京大学地震研究所、東京大学大気海洋研究所、徳島大学地震工学研究室、三菱電機株式会社、mDetect/Swinburne University of Technology

【展示概要】別添の本展チラシ参照

【お問合せ】国立科学博物館 展示部 企画展示課 企画展担当

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

TEL : 03-5814-9840, 9883, 9887 FAX : 03-5814-9898 E-mail : kikakuten@kahaku.go.jp

令和7年3月5日

報道関係者各位

独立行政法人国立科学博物館

気象業務 150 周年企画展

「地球を測る」

報道内覧会のお知らせ

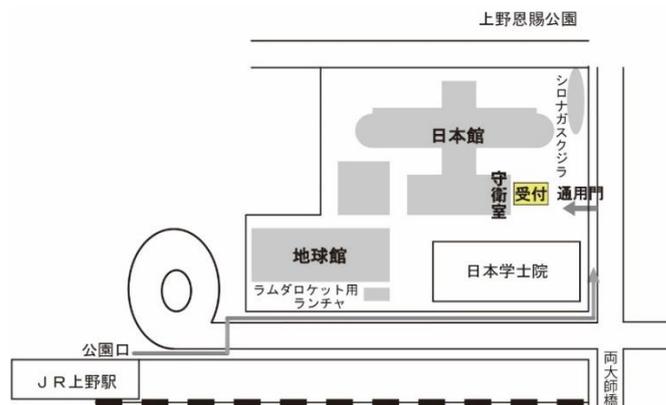
2025(令和7)年3月24日(月)16時～／国立科学博物館

国立科学博物館では、気象業務 150 周年企画展「地球を測る」の開幕に先立ち、下記のとおり報道内覧会を実施いたします。

当日は、本展監修者、特別協力者による展示解説を行いますので、ぜひご参加いただき、記事として取り上げていただければ幸いです。

記

- 【日時】 2025(令和7)年3月24日(月)
16時～17時30分(受付開始 15時30分～)
- 【会場】 国立科学博物館(東京都台東区上野公園7-20)
日本館1階 企画展示室及び中央ホール
- 【受付場所】 日本館1階守衛室前 ※下記地図の通り通用門からお入りください
- 【アクセス】 JR上野駅公園口から徒歩5分
東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅7番出口から徒歩10分
京成電鉄京成上野駅から徒歩10分
※駐車場及び駐輪場の用意はございません



【当日のスケジュール】

15時30分～ 受付開始(受付場所: 日本館1階守衛室前)

16時～17時30分 報道内覧会

※16時から約30分間、本展の監修をした国立科学博物館の研究者が展示解説を行い、皆様からのご質問にお答えします

【お申込み方法】

報道内覧会に参加を希望される方は **3月21日(金)17時まで**に、以下必要事項を記載の上、
国立科学博物館企画展担当 kikakuten@kahaku.go.jp あてメールにてお申込みください。

- ・ 件名：企画展「地球を測る」報道内覧会申込
- ・ お名前
- ・ ご所属
- ・ 緊急連絡先(携帯電話番号)
- ・ メールアドレス

※代表者の方がまとめてお申込みをされる場合も、すべての参加希望者について、
上記の必要事項をご記入願います。

上記アドレスより折り返しのメール連絡をもって受付完了とします(概ね3日以内にお返事
します)。迷惑メールの設定などをされている場合は、受信できるようにご設定ください。

※いただいた個人情報は、報道内覧会以外の連絡には使用しません

厳重に管理し、報道内覧会終了後、1ヵ月以内に破棄いたします

【本展監修者】



国立科学博物館 理工学研究部 理化学グループ 研究主幹 室谷 智子 (むろたに さとこ)

専門は地震学。地震・津波の観測波形記録を使って、どのような地震が起きたのかを調べる研究や、明治・大正期の地震資料から日本の地震調査研究の歴史について調べています。



国立科学博物館 地学研究部 鉱物科学研究グループ 研究主幹 谷 健一郎 (たに けんいちろう)

専門は岩石学・年代学。花崗岩質の大陸地殻が地球史においてどのように誕生・成長したのかを明らかにしたいと思っています。現在も地下で大陸地殻が成長している伊豆小笠原弧に注目し、調査船や潜水船などを使った海底調査を行っています。

【お問合せ・お申込み先】

国立科学博物館 展示部 企画展示課 企画展担当

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

TEL:03-5814-9840, 9883, 9887 FAX:03-5814-9898

E-mail:kikakuten@kahaku.go.jp

広報用写真提供

広報用として写真をご用意しております。

国立科学博物館ホームページの「各種手続き・報道関係資料」→「写真の貸出」からお申込みできます。
(<https://www.kahaku.go.jp/procedure/rent/index.html>)



① 気象業務150周年企画展「地球を測る」ポスター



② 地電気自記器
(所蔵: 国立科学博物館)



③ ロビンソン風速計
(画像: 気象庁提供)



④ ひまわり9号
(画像: 気象庁提供)



⑤ 凌風丸
(画像: 気象庁提供)



⑥ 日本初の印刷天気図
(画像: 気象庁提供)



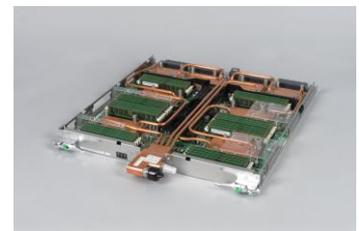
⑦ 超音波式風向風速計
(画像: 気象庁提供)



⑧ トランシット
(所蔵: 国立科学博物館)



⑨ REGMOS
(所蔵: 国土地理院)



⑩ スーパーコンピュータ「京」システムボード
(所蔵: 国立科学博物館、寄贈: 理化学研究所)

【記事利用の際のお願い】

- * 写真使用は本展の紹介目的のみとさせていただきます。本展終了後の使用はできません。
- * 写真掲載時には、資料のクレジットを必ずご記載ください。
- * 記事のなかで、会期、入館料、開館時間などの基本情報をご掲載いただく場合は、確認のため、下記担当まで校正原稿をお送りください。
- * ご掲載いただいた場合は、掲載誌等をお送りいたしますようお願い申し上げます。

〈お問合せ先〉 国立科学博物館 展示部 企画展示課 企画展担当
電話 03-5814-9840, 9883, 9887 FAX 03-5814-9898
E-mail: kikakuten@kahaku.go.jp 〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

気象業務 150 周年企画展



気象庁マスコットキャラクター
はれるん

OBSERVING EARTH

地球を測る

今は宇宙からも
測っているんだって
ぼくたちが案内するよ



企画展ナビゲーター
あーすん

150年前の
人たちはどうやって
測っていたのかな



国立科学博物館 (東京・上野公園) 日本館1階企画展示室および中央ホール
National Museum of Nature and Science (Ueno Park, Tokyo)

2025
03 / 06
25 → 15
TUE SUN

開館時間 / 9時～17時

※4月26日(土)～5月6日(火・休)は18時まで ※入館は各閉館時刻の30分前まで

休館日 / 月曜日、5月7日(水)

※ただし3月31日(月)・4月28日(月)・5月5日(月・祝)・6月9日(月)は開館

入館料 / 一般・大学生630円(団体510円)

※団体は20名以上 ※高校生以下および65歳以上は無料

主催 / 国立科学博物館

特別協力 / 気象庁

協賛 / 日本気象協会

後援 / 地球ウォッチャーズ—気象友の会—

掲載資料 上から
地電気日記簿
ロビンソン風速計
ひまわり9号 画像: 気象庁
凌風丸 画像: 気象庁

地球を測る



1875年6月1日に東京気象台（現在の気象庁）において、我が国の気象業務としての気象・地震観測が始まりました。本展では、さまざまな自然現象を観測する手法やその歴史、これまで蓄積されてきた観測データから地球環境の様子やその変化が明らかになり、また防災・減災にも大きく貢献していることを紹介します。

1章 自然現象を測る

地球や宇宙では、目に見えないさまざまな自然現象が起こっています。人々はいつそれらの現象に興味をもち、「測る（観測する）」ことを始めたのでしょうか。ここでは、明治になり日本の近代化が進むなか、どのように地球で起こる自然現象を日本で測り始めたのかについて紹介します。



日本初の印刷天気図
所蔵：気象庁

2章 大気と海を測る



気象庁火山防災
マスコットキャラクター
ぼるけん

「今日の日中の最高気温は35度を超えました」、「明日は1日で100ミリの大雨となるでしょう」、「地球は温暖化が進んでいます」といった言葉を、普段の生活の中で聞いたことがあると思います。これらはどのように調べているのでしょうか。この章では、大気や海洋の観測がどのように行われているか、なぜ行われているかを紹介します。



超音波式風向風速計
所蔵：気象庁

3章 地球内部を測る

地球の内部がどうなっていて、何が起きているか、知っていますか。私たちは地球の中を直接見ることはできません。どうやって調べるのでしょうか。そして、何がわかるのでしょうか。地震や火山、地磁気、地殻変動などの観測から、私たちが暮らす地球の中の様子をのぞいてみましょう。



トランシット
所蔵：国立科学博物館

4章 宇宙や空から地球を測る

150年前は地上からの観測だけでしたが、現在では宇宙や空からも観測できるようになり、測る精度も上がっています。人が立ち入れないような場所も含め、人工衛星や航空機が地球を見守るために活躍しています。この章では、宇宙や空からどのような現象を測ることができるのかを紹介します。



REGMOS
所蔵：国土地理院

中央ホール 人はなぜ地球を測るのか

150年前、日本では近代的な観測機器で自然現象を記録し始めました。気象や海洋、地震、火山噴火などを知るために観測が始まり、その後、現象のメカニズムを理解し、予測や防災・減災につなげるために継続されてきました。ここではこれまでの観測データを活用した現象の予測や、今後期待される観測について紹介します。



アクセス

- JR
「上野駅」公園口から徒歩5分
- 東京メトロ 銀座線・日比谷線
「上野駅」7番出口から徒歩10分
- 京成電鉄
「京成上野駅」正面口から徒歩10分

※当館には駐車場および駐輪場はございません。

〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20
TEL：050-5541-8600（ハローダイヤル）
FAX：03-5814-9898
<https://www.kahaku.go.jp/>



スーパーコンピュータ
「京」システムボード
所蔵：国立科学博物館
寄贈：理化学研究所



国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

